



「ベースメタルを巡る最近の動き」

平成19年7月26日

企画調査部

大久保 聡

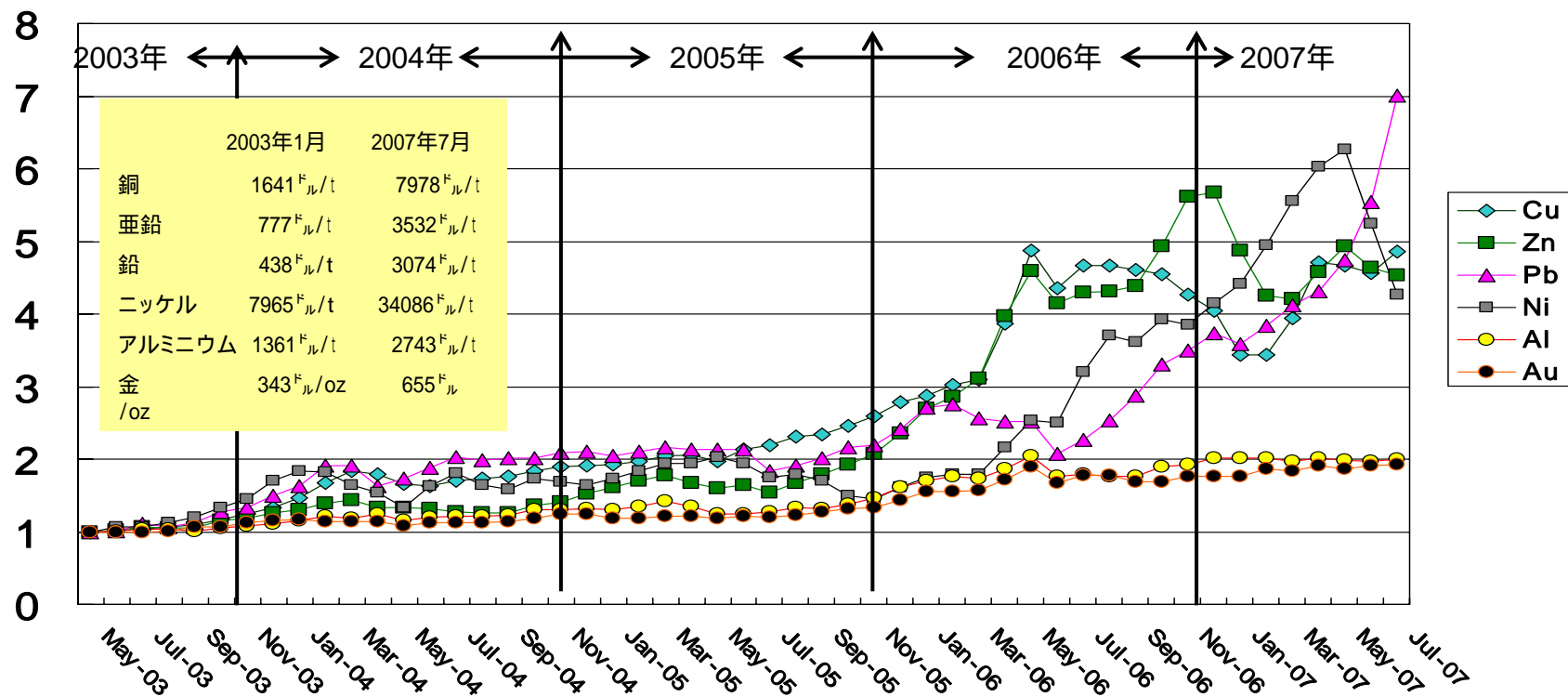
独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構

ベースメタル市場の概況

- 2006年5月より、需給の逼迫を受け銅、ニッケル、亜鉛、鉛の国際価格が高騰。
- 銅は2006年5月に8,700ドル/t、亜鉛は、11月に4,600ドル/t台、ニッケルは2007年5月54,000ドル/tまで到達。鉛は3,400ドル/t台で続伸中。全て史上最高値を更新。
- 需給の逼迫は中国の旺盛な消費の伸びが大きく寄与
- *中国の消費シェア(2006年)は全て世界第1位で、銅21.6%、ニッケル18.3%、亜鉛29%、鉛27.4%といずれも大きな割合を示す。*

金属価格指数の推移 (2003年5月 = 100)

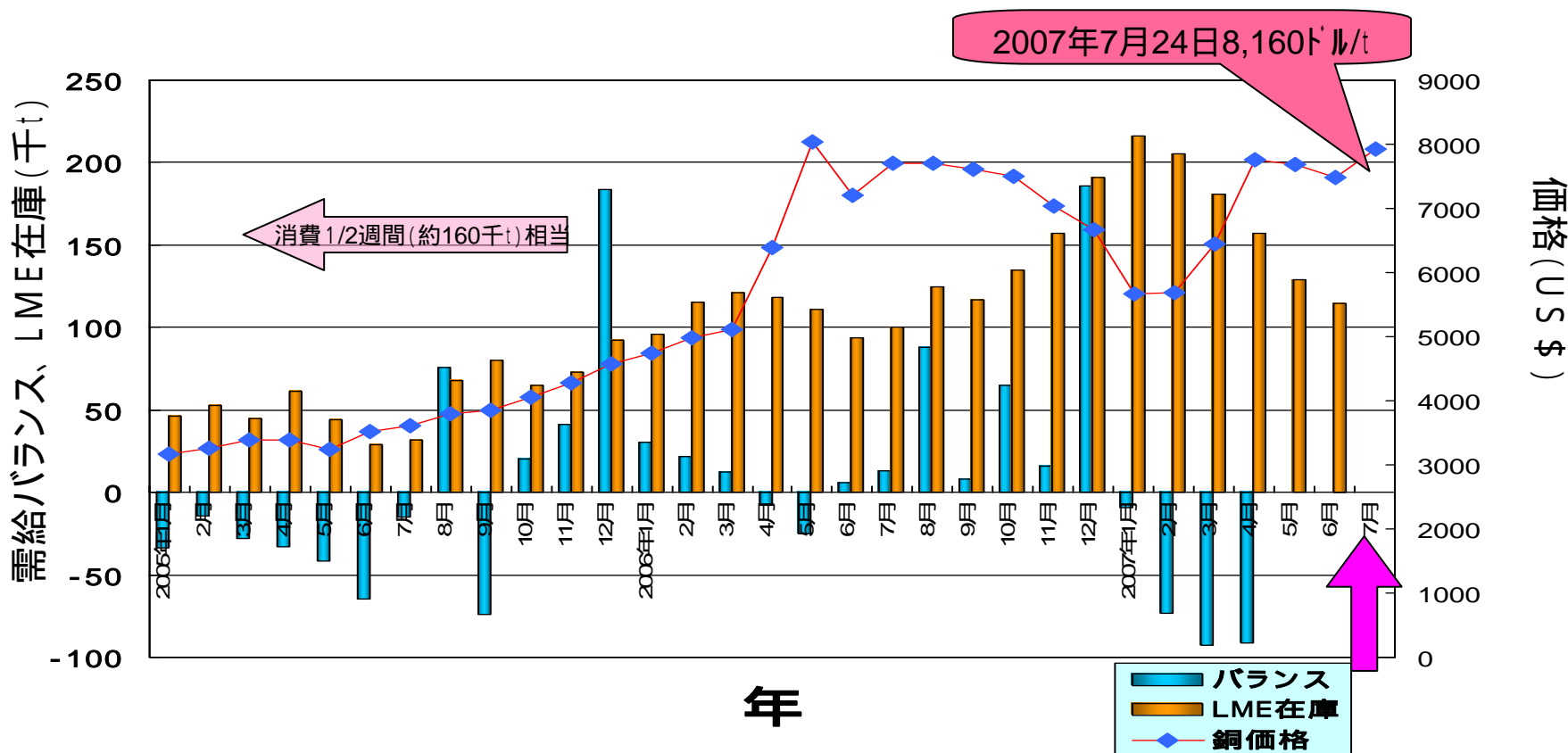
- 主要金属6鉱種の価格推移を、2003年5月をベース(1.00)として指数で表す。
- 2007年7月時点で、鉛は7倍、銅、亜鉛、ニッケルは4倍強まで上昇。金とアルミニウムは2倍で推移。
- 銅と亜鉛は2006年1月頃より急騰、ニッケル、鉛は2006年5月頃より急騰を始める。



銅の需給

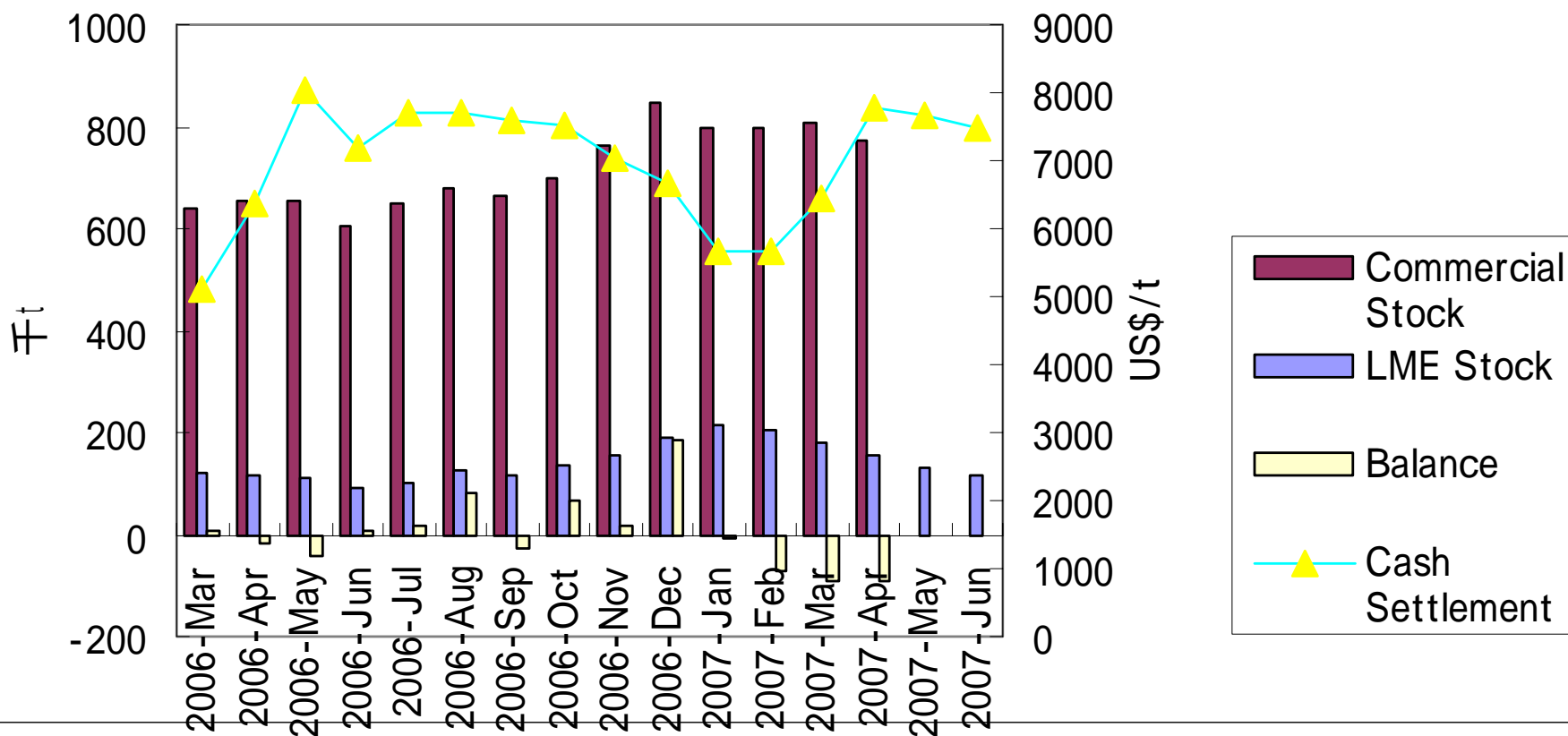
銅需給バランスと価格動向 (2005年1月～)

- 銅価格は、2006年3月から急騰し、2006年5月に史上最高レベル(8,700ドル/t台)まで上昇、その後2007年1,2月に5,000ドル/t台まで下がったが、再び上昇傾向、7000ドル/t台で推移(瞬間的に8,000ドル/tを突破することもあり)。
- LME在庫は2007年1月をピークに減少傾向、依然として消費の1/2週間分程度のレベルを維持。
- バランスは2007年に入り供給不足が続く。月当たり-100千t近くと比較的大きい供給不足である。



商業在庫、LME在庫、バランスと価格の推移(銅)

銅国際価格(LME価格)が落ち着いたこともあり、2006年末までLME在庫は増加傾向であったが、価格が再び上昇したことを受け、現在、減少傾向にある。商業在庫はLME在庫の4倍～6倍強で推移。



出典：国際銅研究会

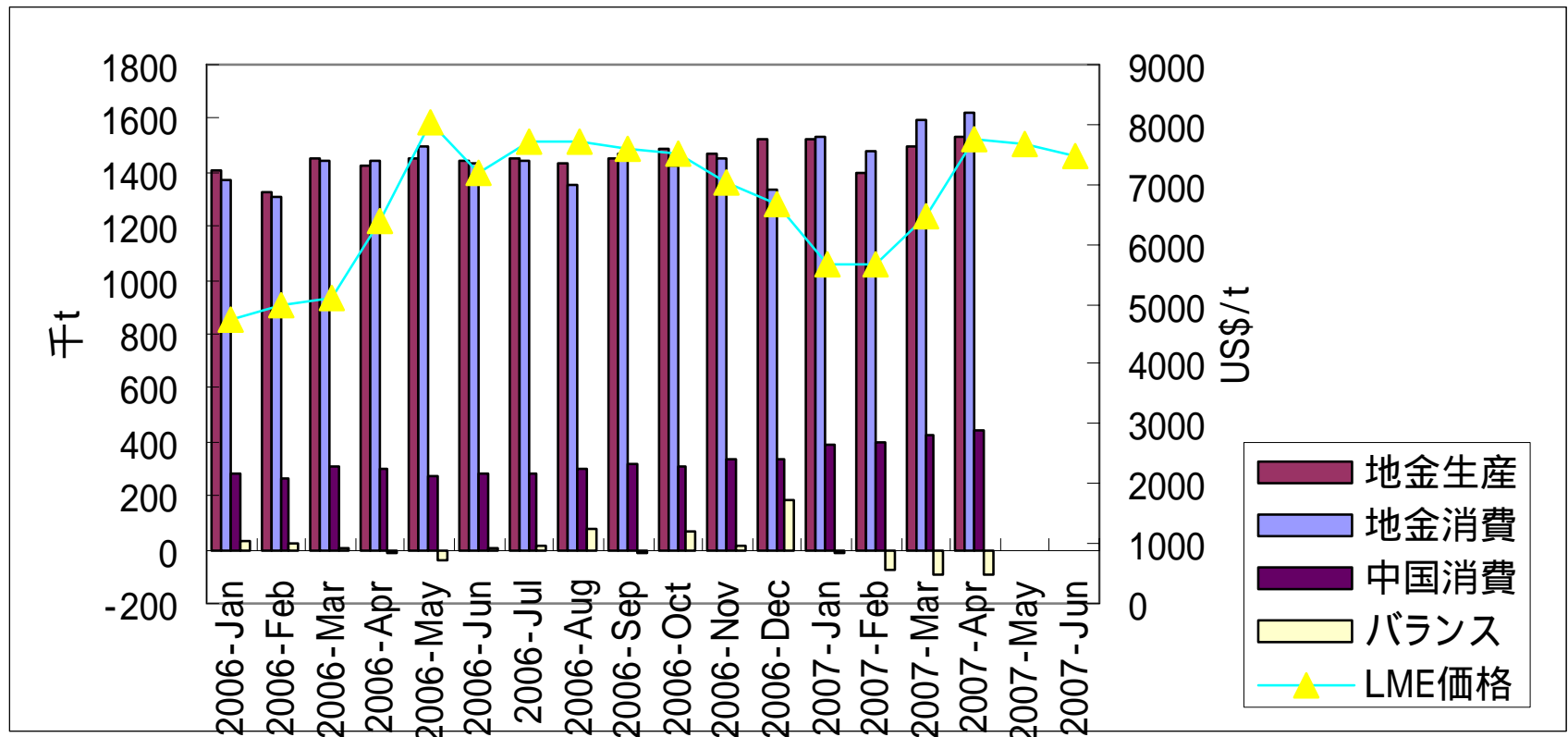
Commercial Stock: Producer, Consumer, Merchant

また、この他COMEX、SHFEといった市場在庫もあり(合計でLMEの1/3程度)

銅地金の世界生産・消費及び 中国地金消費の推移

銅国際価格(LME価格)が落ち着いたこともあり、2007年に入り世界消費が増加へ。中国の消費は顕著な増加(2007年1~3月、前年同期比35.7%増、世界消費の26%を占める)

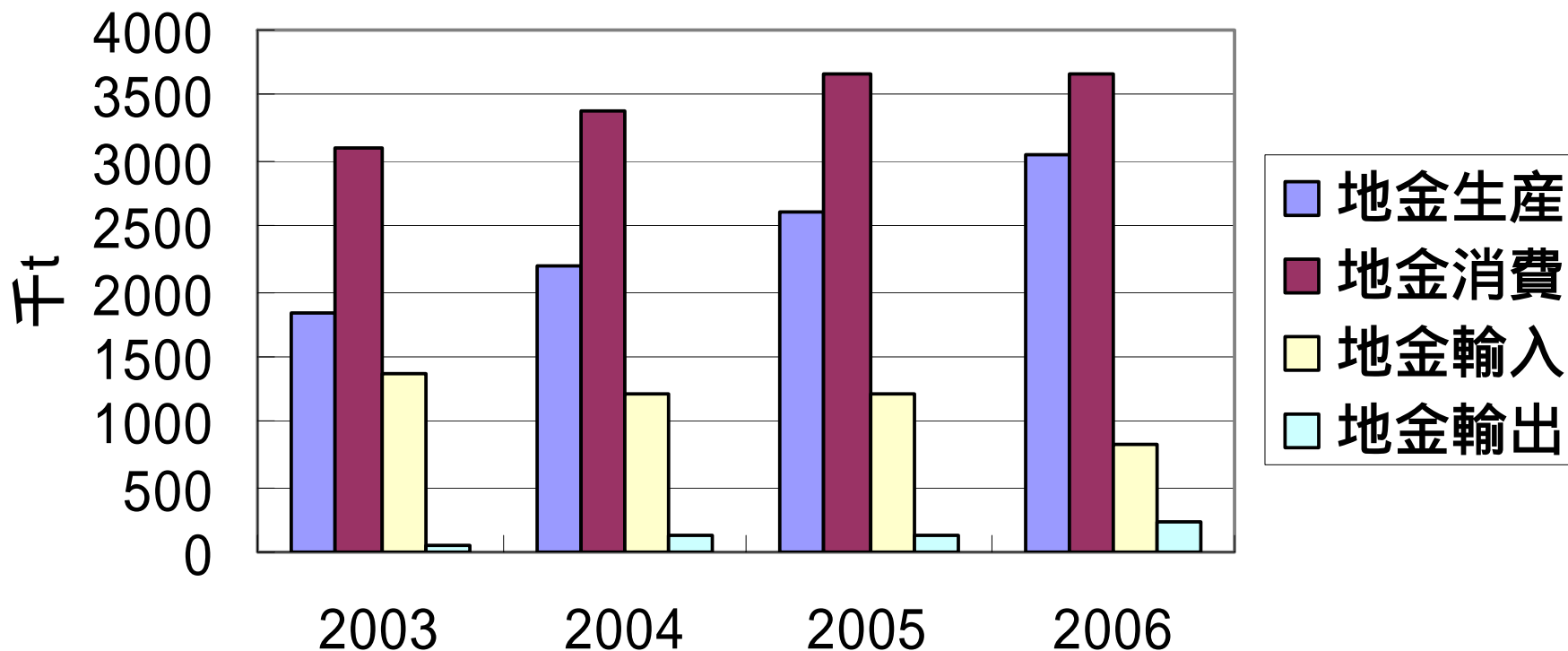
*但し2006年の中国の消費量は見かけ消費(地金生産量 - 在庫変化 + ネット輸入量)であり、統計値として実情を表してない可能性あり。



中国銅地金の貿易推移

2003～2005年と地金生産・消費ともに増加、一方地金輸入はわずかながら減少。2006年に入り地金消費は伸び悩んだものの、地金生産が伸び、地金輸入の減少(前年比32.3%と大幅減)を補った。地金輸出は総量は小さいものの、着実に増加。

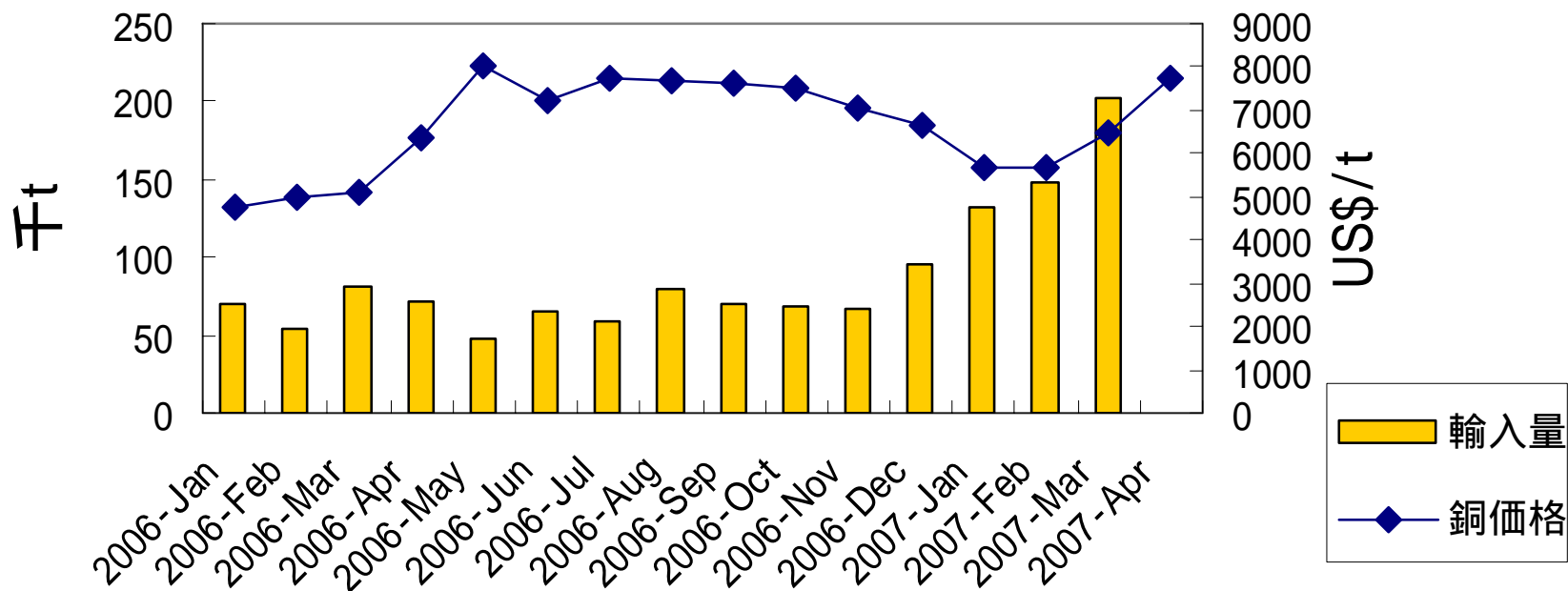
**但し2006年の中国の消費量は統計値として実情を表してない可能性あり。2003年～2005年の伸び率の平均から求めた補正值では約4,000千tとなる。*



中国の銅地金輸入量の推移 (直近)

銅国際価格 (LME価格) が落ち着いたこともあり、2007年に入り輸入量が顕著な伸びを示している。1～3月は前年同期比135%増と倍増 (比較的高かった2005年のレベルと比較しても60%増と大幅な伸び)、この値は一月当たりで見ると世界地金輸入の25%、世界地金生産の約10%程度に相当

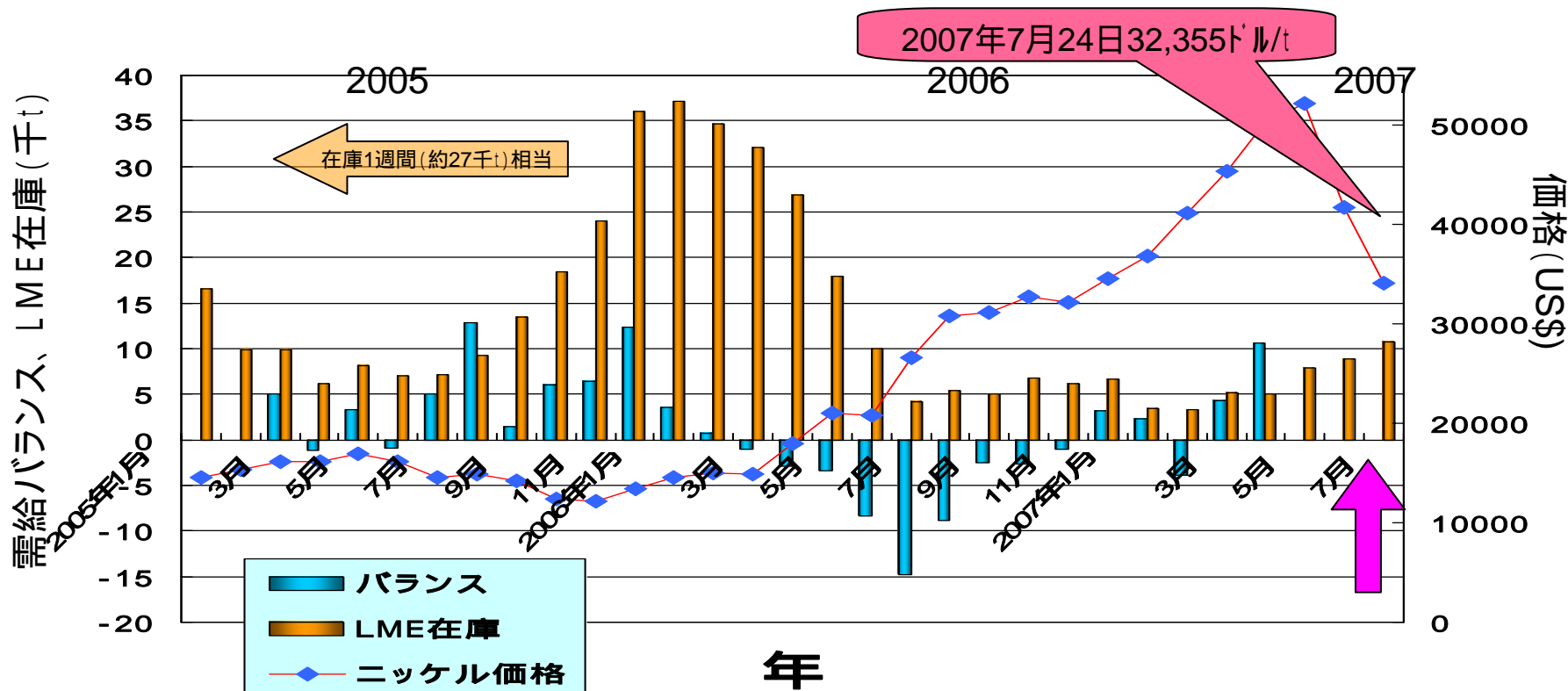
中国の銅地金輸入量と銅LME価格の推移



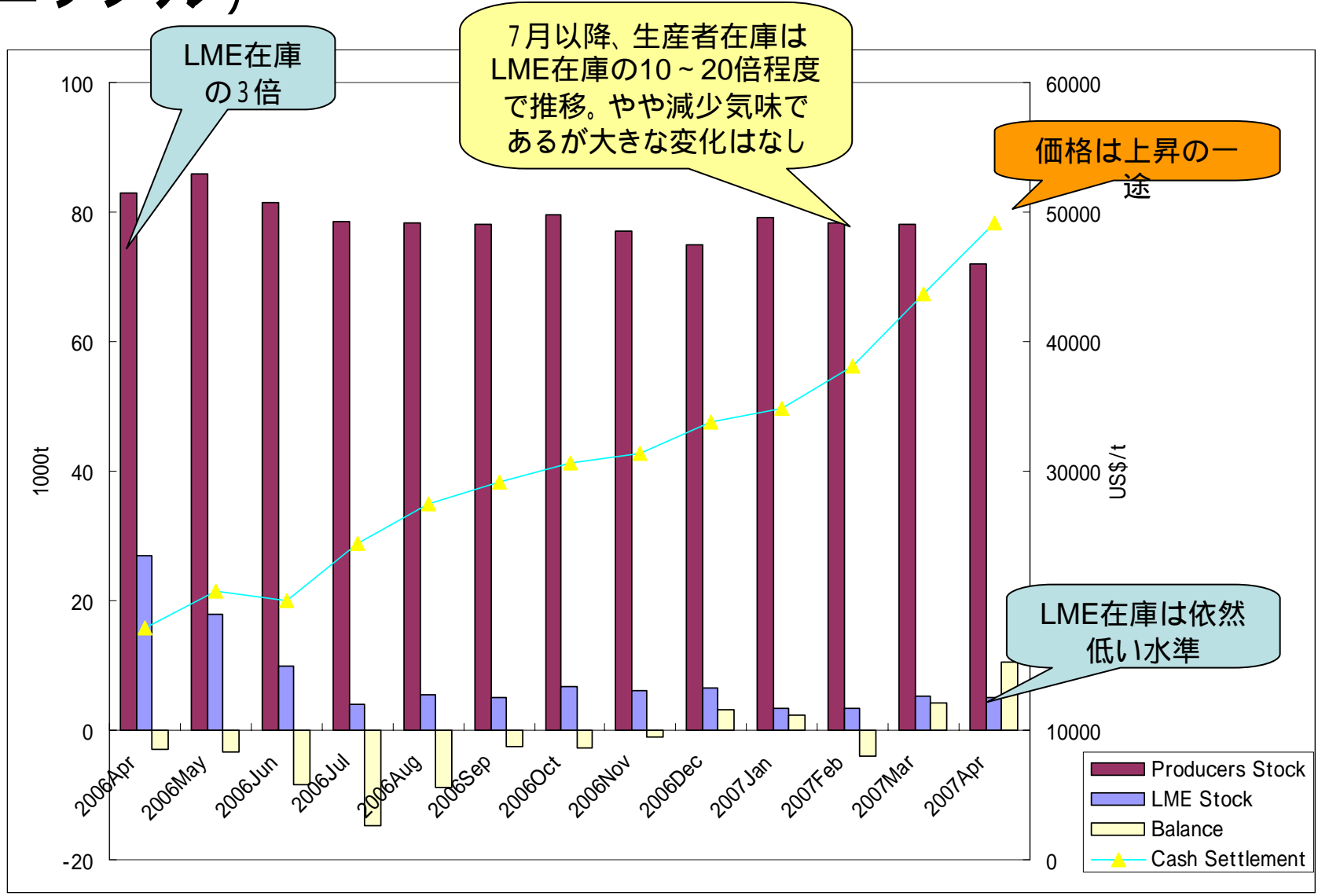
ニッケルの需給

ニッケル需給バランスと価格動向(2005年1月～)

- ・ニッケル価格は、2006年に入り急騰し、2006年8月以降は30000ドル/t超え、2007年4月以降、50,000ドル/t超えの状態が続く。5月16日史上最高値54,200ドル/tに到達。
- ・この急騰が実需を必ずしも反映していないと判断したLMEが6月6日に大口ニッケル保有者の貸借取引(レンドینگ)の幅を制限(現物価格の0.5%以内)。その結果、価格が下落し、7月に入り30000ドル/t台で推移。
- ・LME在庫は2007年に入り回復傾向にあるが7月現在10千t台と依然、低水準。
- ・バランスは、プラスとマイナスを繰り返してきたが、2007年に入っても依然タイト。



商業在庫、LME在庫、バランスと価格の推移 (ニッケル)

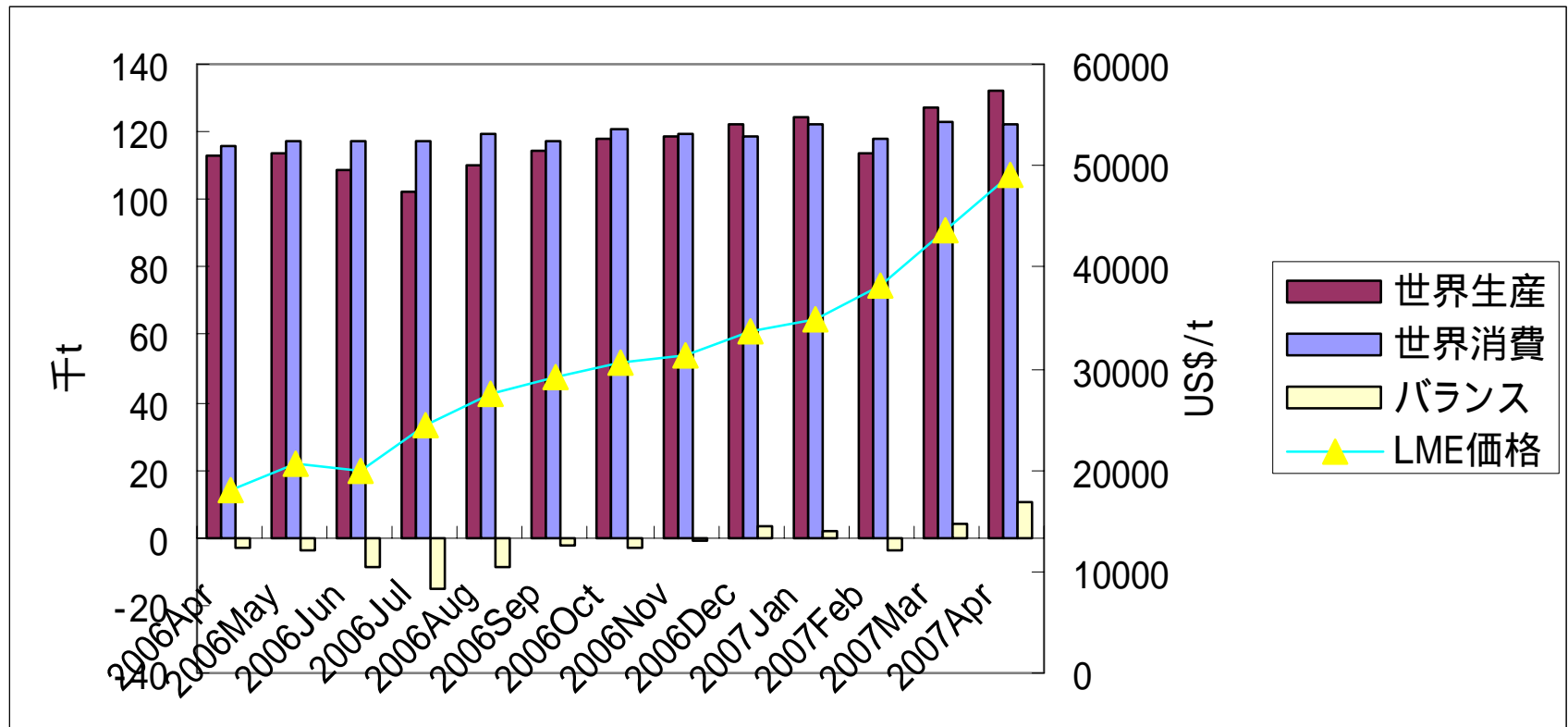


(商業在庫は生産者在庫のみ)

出典: 国際ニッケル研究会

ニッケル国際需給と価格

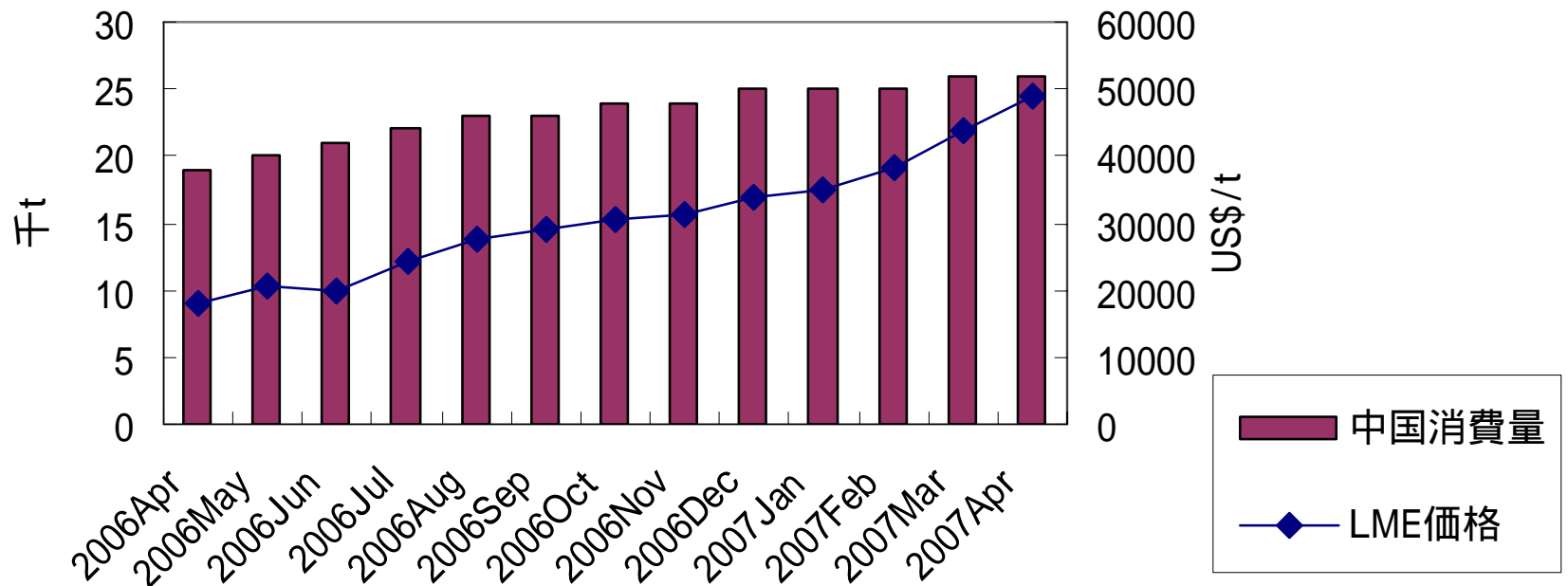
バランスは世界生産・消費の±数%程度(最大で12%程度)で推移し、需給のタイトさは他のベースメタルと同じレベル。また、世界消費は年間では7.8%の伸びであるが、月単位での大きな変動はなく、価格が上昇の一途であることから、需給と価格の推移が不自然といえる。



中国ニッケル消費の伸び

2007年1～4月の中国消費は前年同期比39.7%増(この期間の世界消費の21%を占める)と大幅な伸びを示す。2006年の消費は2002年の約3倍のレベル。

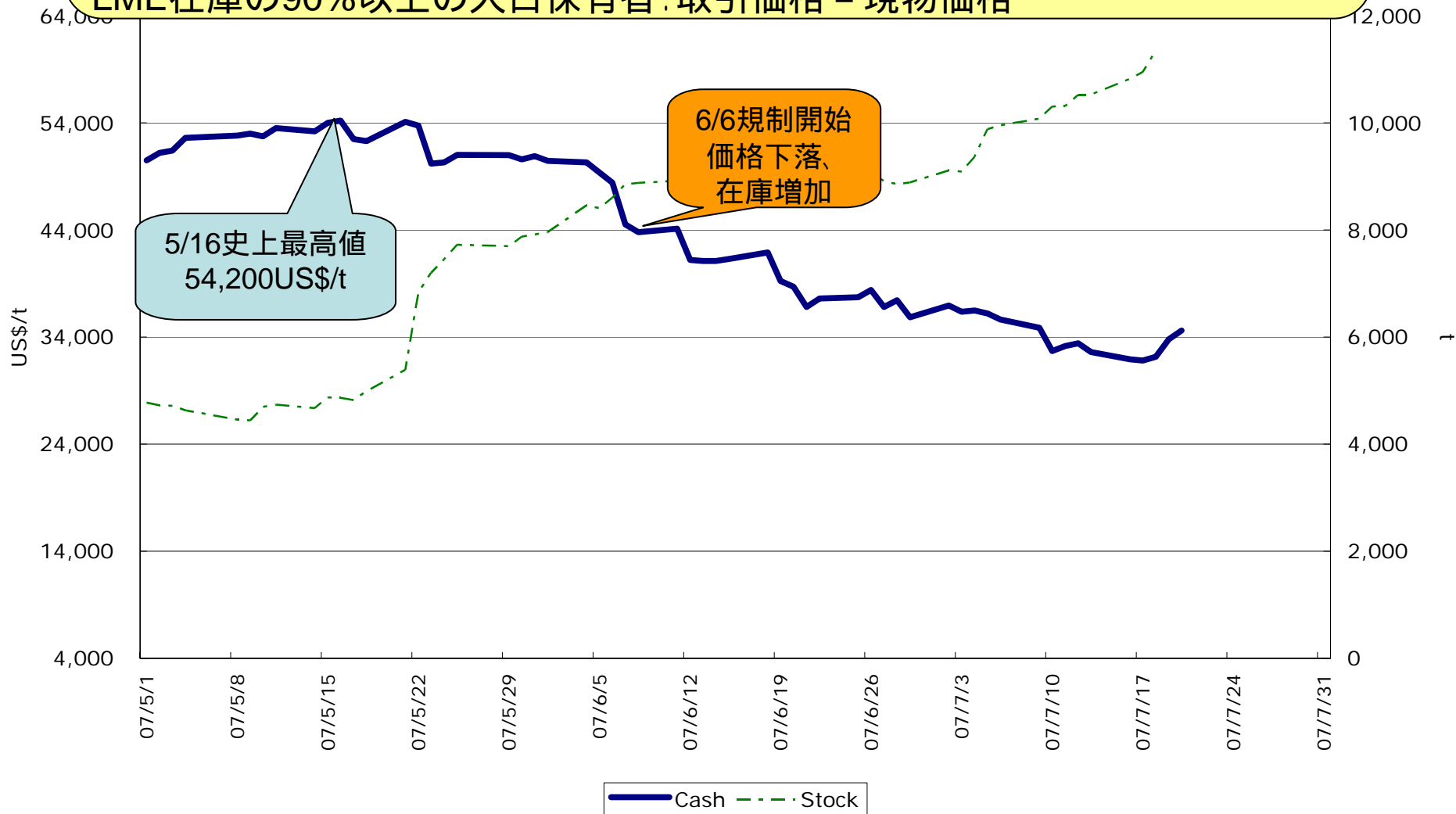
中国のニッケル一次消費と価格の推移



出典: 国際ニッケル研究会

直近のLME価格及び在庫の推移

< LMEの規制変更 2007年6月6日 > 不当な価格つり上げの抑制が目的
LME在庫の50% ~ 80%の大口保有者: 取引価格の幅は現物価格の0.5%以内
LME在庫の80% ~ 90%の大口保有者: 取引価格の幅は現物価格の0.25%以内
LME在庫の90%以上の大口保有者: 取引価格 = 現物価格

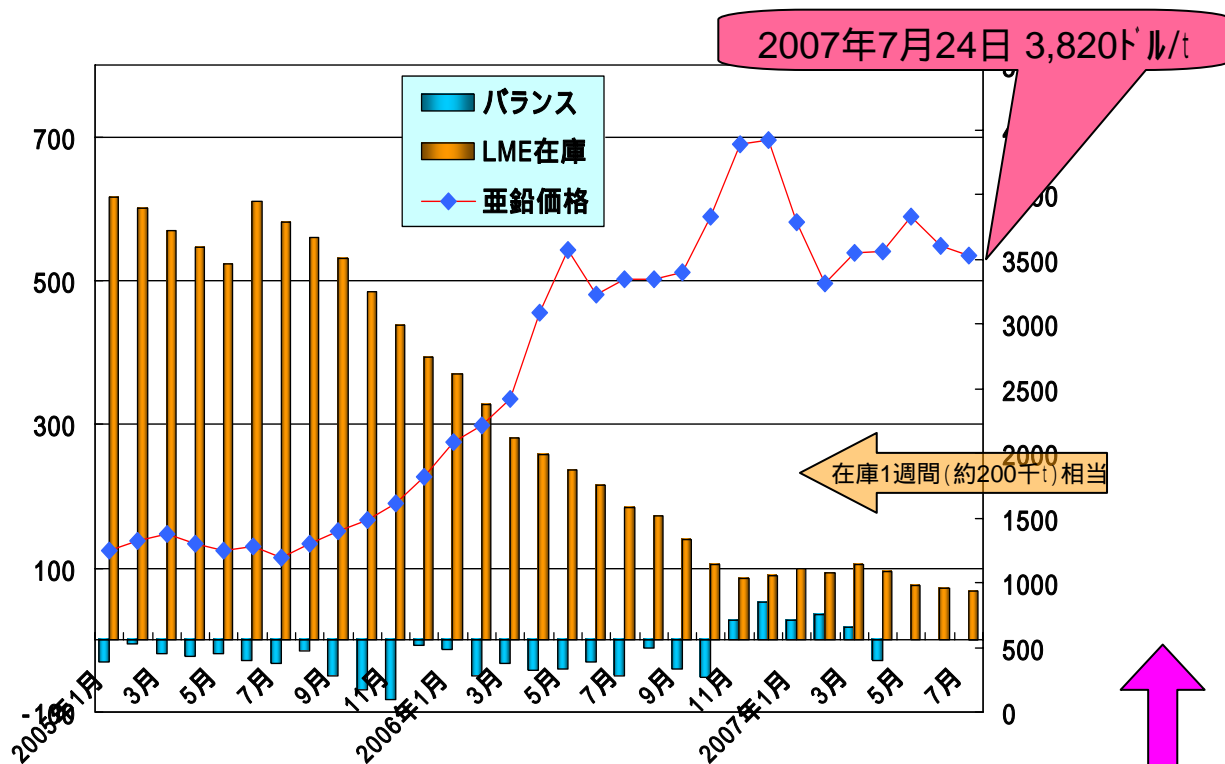


亜鉛の需給

亜鉛需給バランスと価格動向(2005年1月～)

- 亜鉛価格は、2006年に入って急騰し、継続する供給不足もあり2006年12月4,600ドル/tという史上最高値まで上昇。2007年に入り、需給が緩んだこともあり3,500ドル/t前後で推移。
- LME在庫は2003年以降減少基調にあり、2006年末から100千tを割る低水準(1/2週間相当)まで減少。2007年に入って依然100千t以下と低いレベルである。
- バランスは依然としてタイト。供給不足が続いていたが、2007年に入り供給超過に転じた。4月は再び供給不足へ。

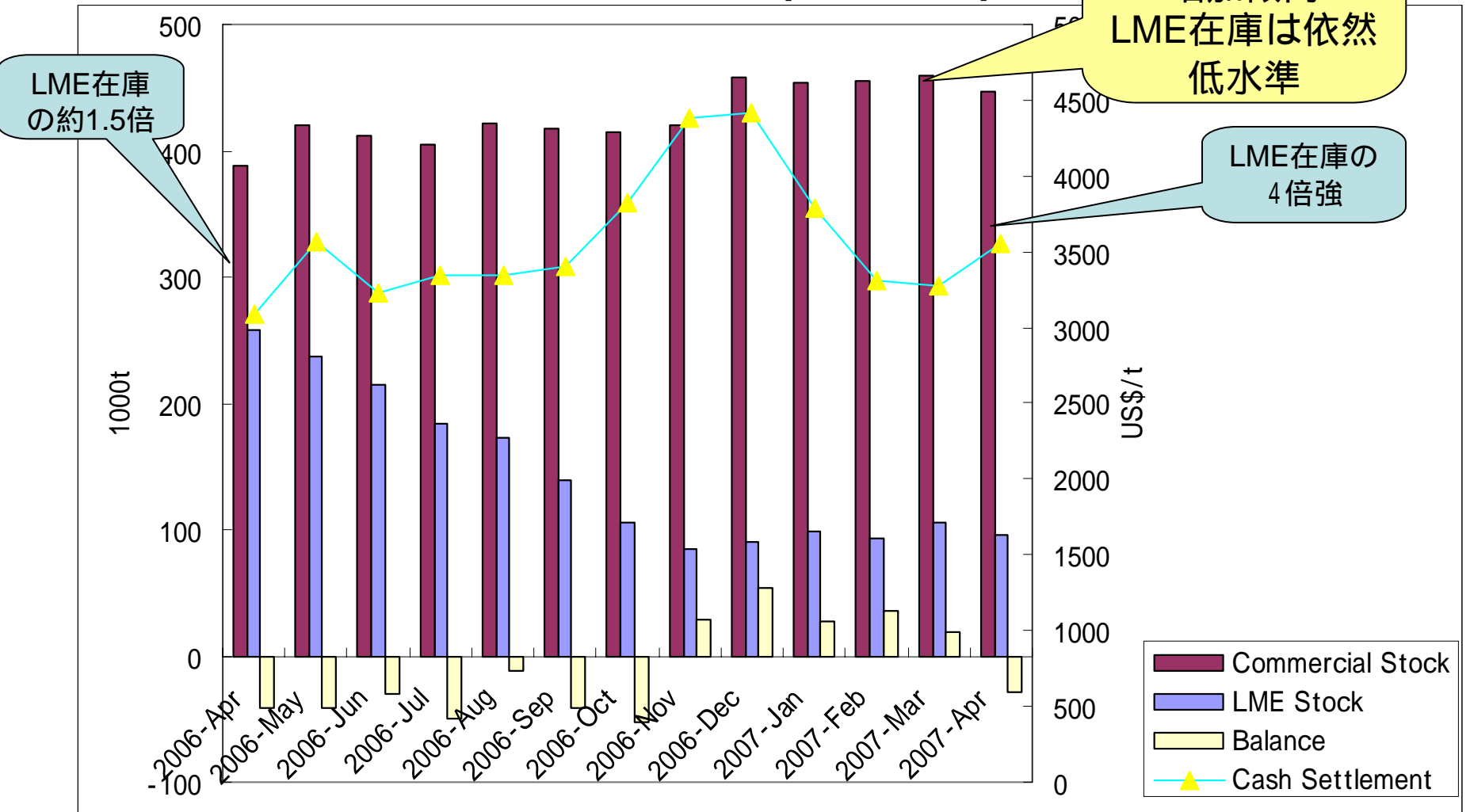
需給バランス、LME在庫(千t)



価格(US\$)



商業在庫、LME在庫、バランスと価格 の推移(亜鉛)



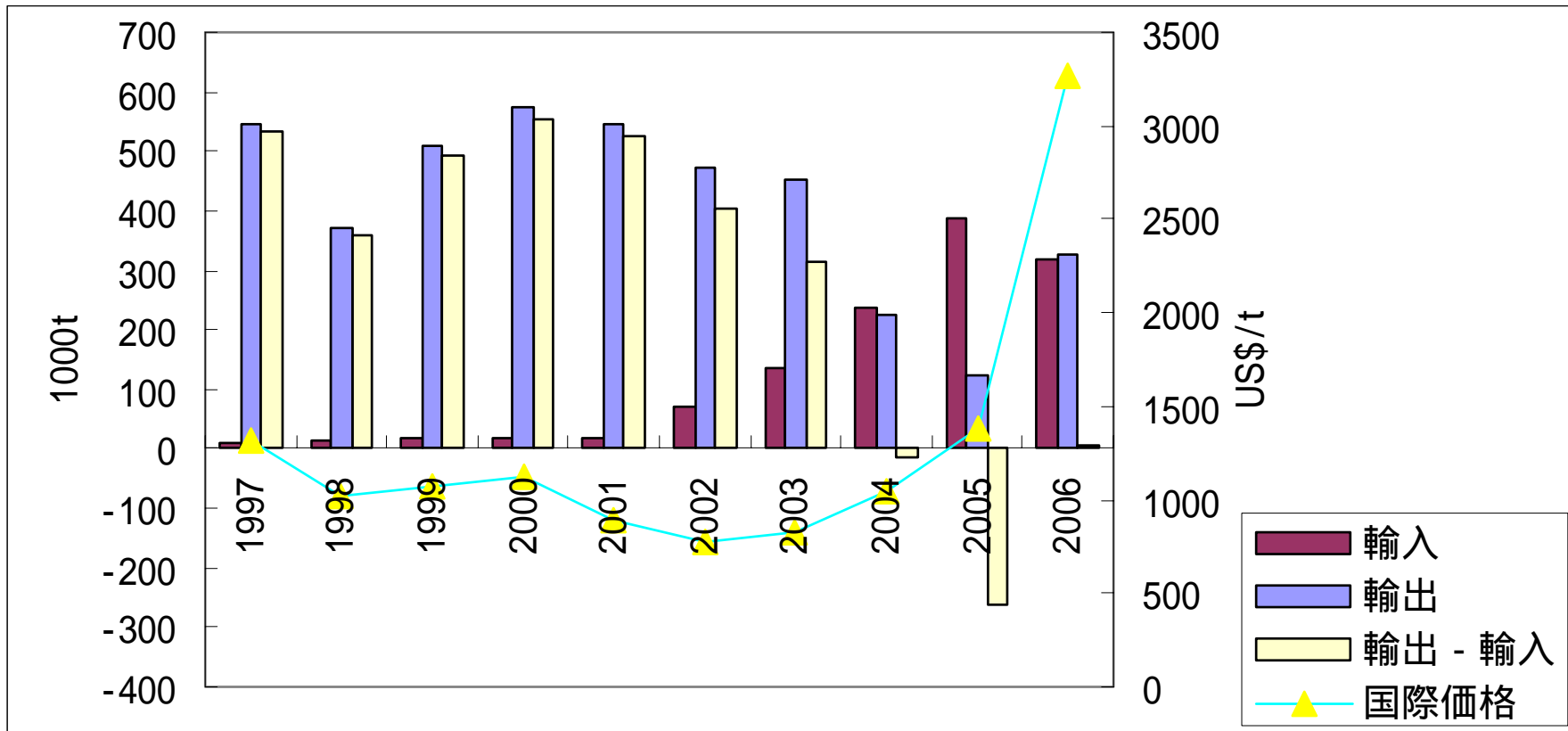
LME在庫
の約1.5倍

商業在庫はやや
増加傾向
LME在庫は依然
低水準

LME在庫の
4倍強

中国の亜鉛地金貿易の推移

中国は世界最大の亜鉛地金(鉱山も)生産国(2006年で全世界の29.9%を占める)。一方、内需拡大もあり2000年より最大消費国となった(2006年で全世界の29.0%を占める)。亜鉛貿易については2003年までは輸出国であったが、2004年、2005年は輸入国に転じるも、2006年は価格高騰の影響もあり貿易はほぼバランス。

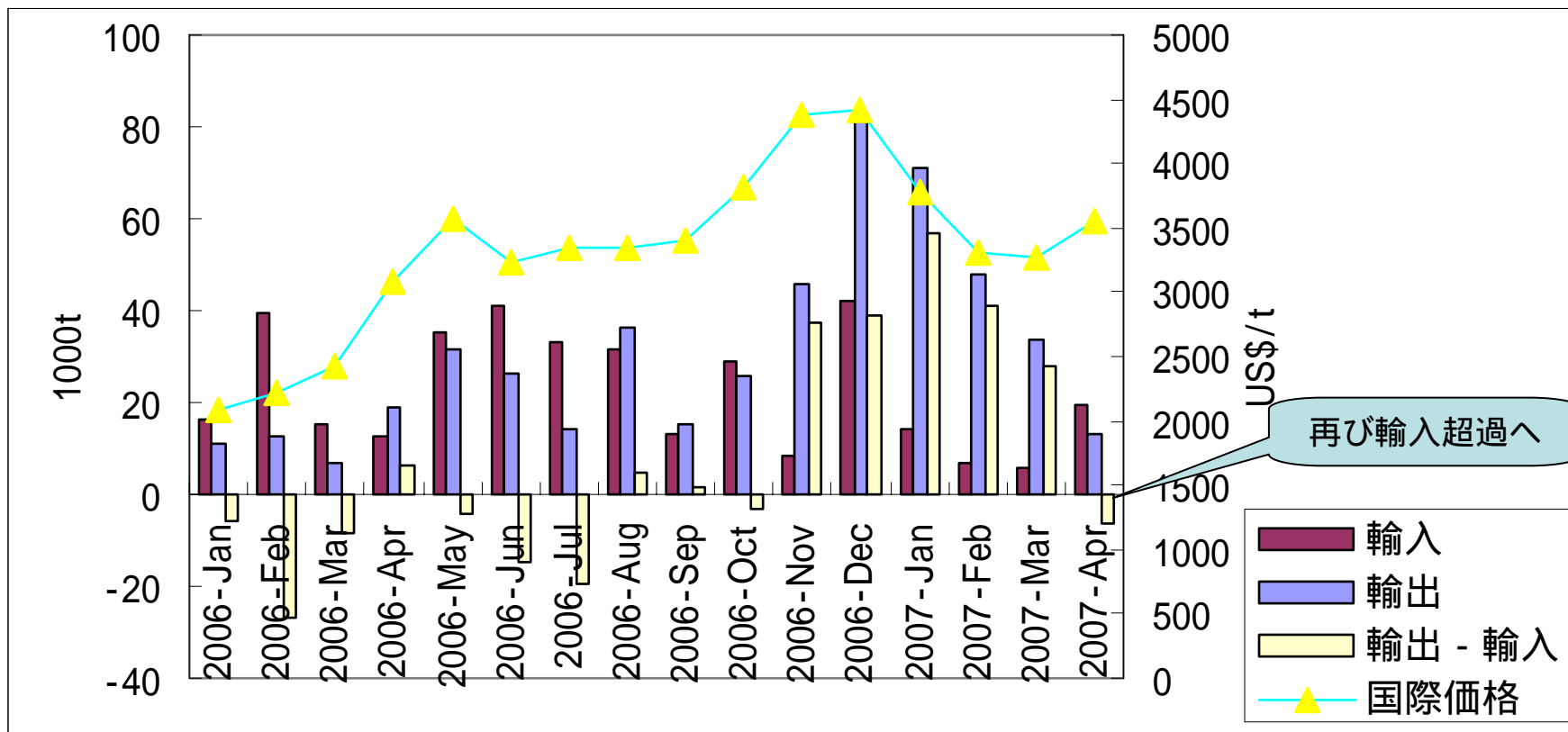


(中国の地金生産・消費ともに、3,200千t程度)

出典: WBMS

直近の中国の亜鉛地金貿易

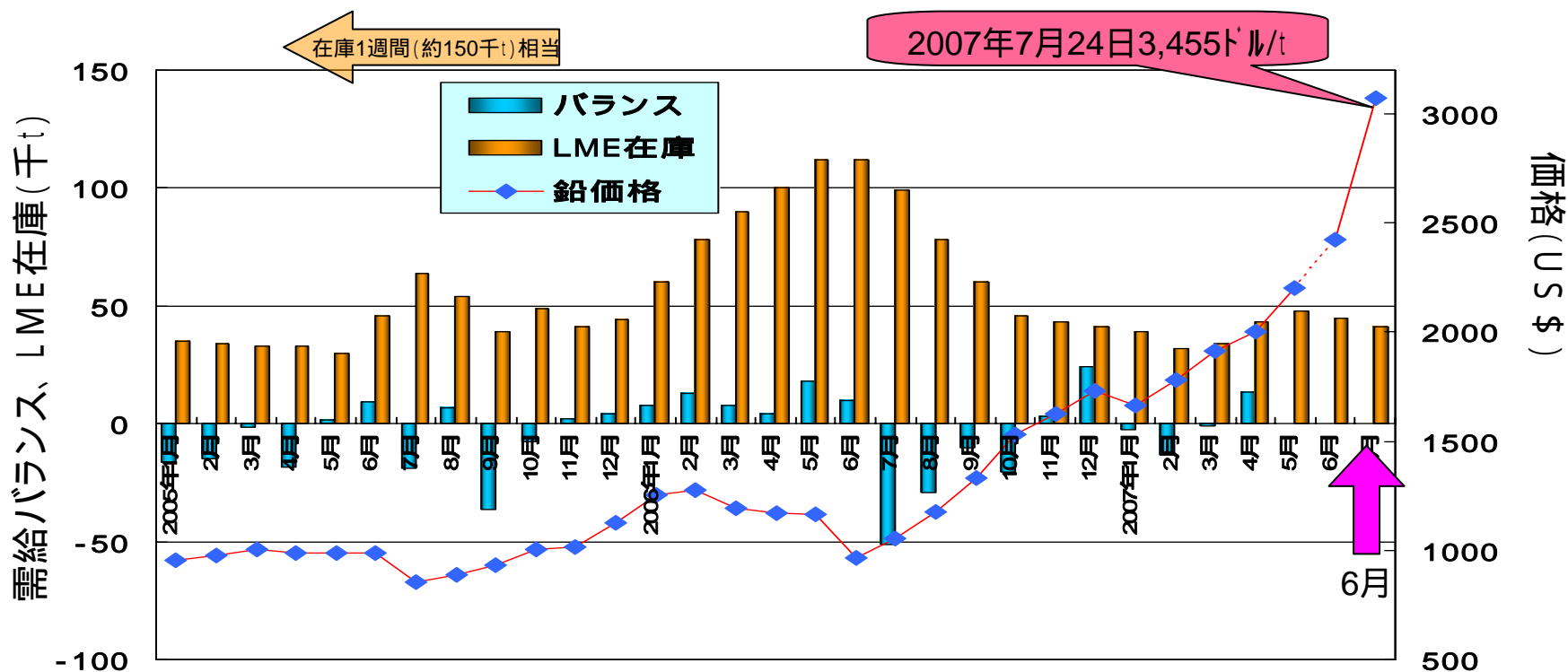
2006年初めは前年の旺盛な需要・輸入増加傾向が続いていた。5月の価格高騰(3,500US\$/t台)はさほど影響が無かったが、11、12月の価格高騰(4,400US\$/t台)により輸出が急増、2007年に入り価格が落ち着いたことから貿易の規模も縮小気味。



鉛の需給

鉛需給バランスと価格動向(2005年1月～)

- 鉛価格は、史上最高値を更新し続け、2007年7月、3,300ドル/t台まで上昇。供給障害の懸念、年初に中国からの輸出量が激減したことが一因と考えられる。
- LME在庫は2006年、年央以降減少傾向にあった。2007年に入りわずかながら増加傾向にあるが50千t前後と依然低い水準である。
- バランスは2006年後半から供給不足が続く、2007年も依然としてタイトである。

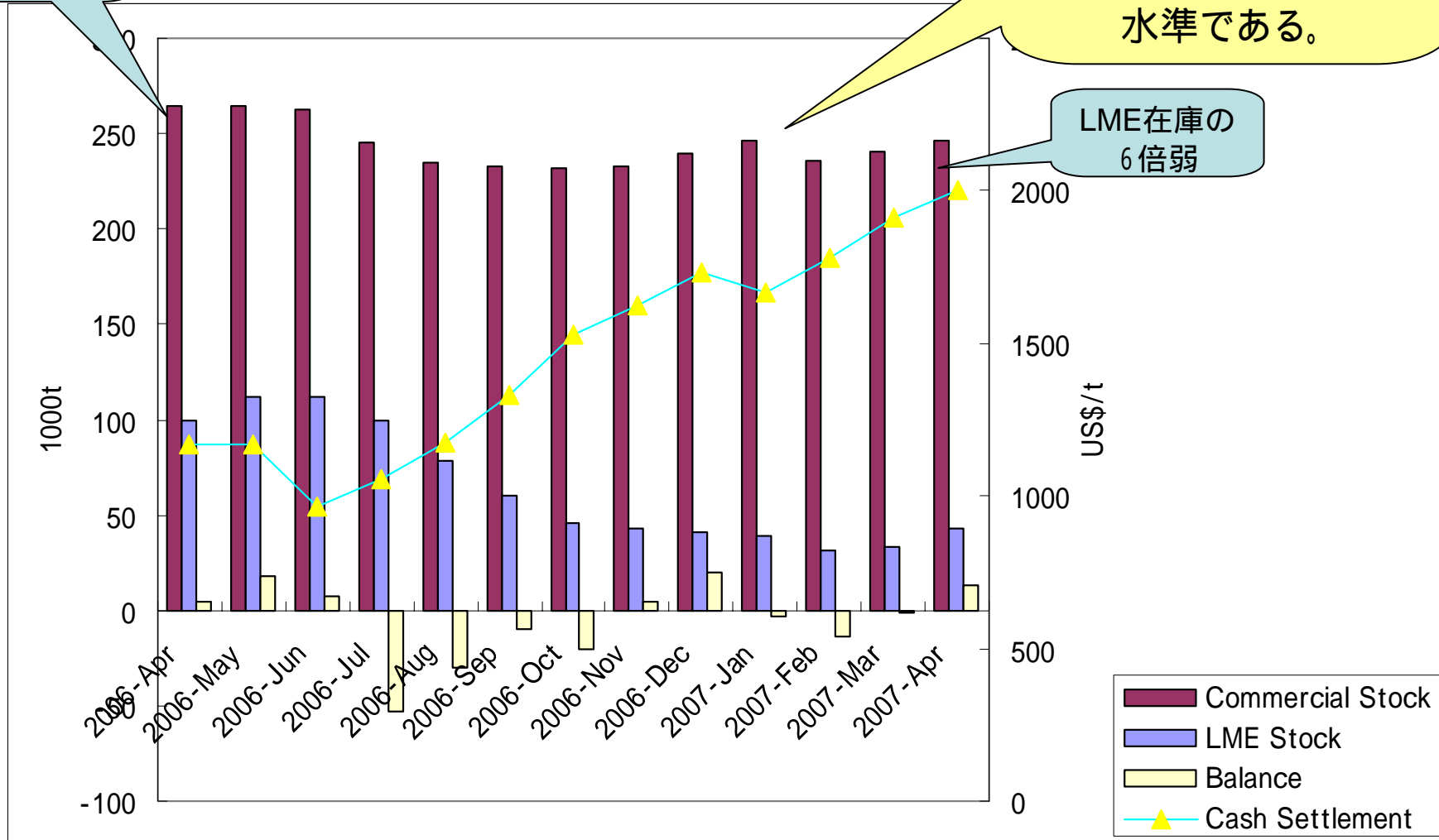


商業在庫、LME在庫、バランスと価格の推移 (鉛)

LME在庫の
2倍強

商業在庫は大きな変化なし。需給はタイト。LME在庫は依然低い水準である。

LME在庫の
6倍弱



Commercial Stock: Producer, Consumer, Merchant

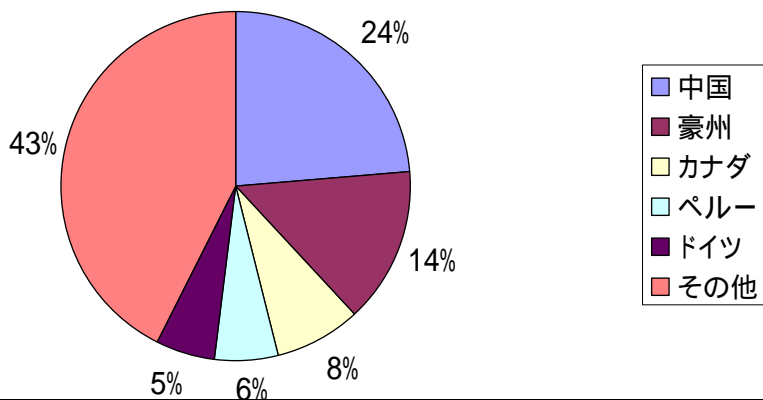
出典: 国際鉛亜鉛研究会

鉛地金の主要輸出国

中国は鉛地金の最大生産国(世界生産の34%)・消費国(2004年より世界一、世界消費の27%)であり、最大輸出国。

世界の輸出に占める割合は、2003年に比べ高くなっており、現在1/3弱。中国国内の需要拡大を考えると、脆弱な貿易構造である。

鉛輸出国割合(2003年)

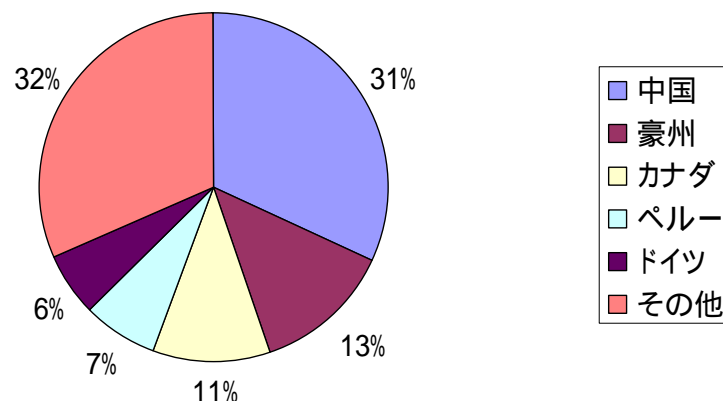


2003年

輸出量合計: 1,851千t

中国輸出量: 438千t

鉛輸出国割合(2006年)



2006年

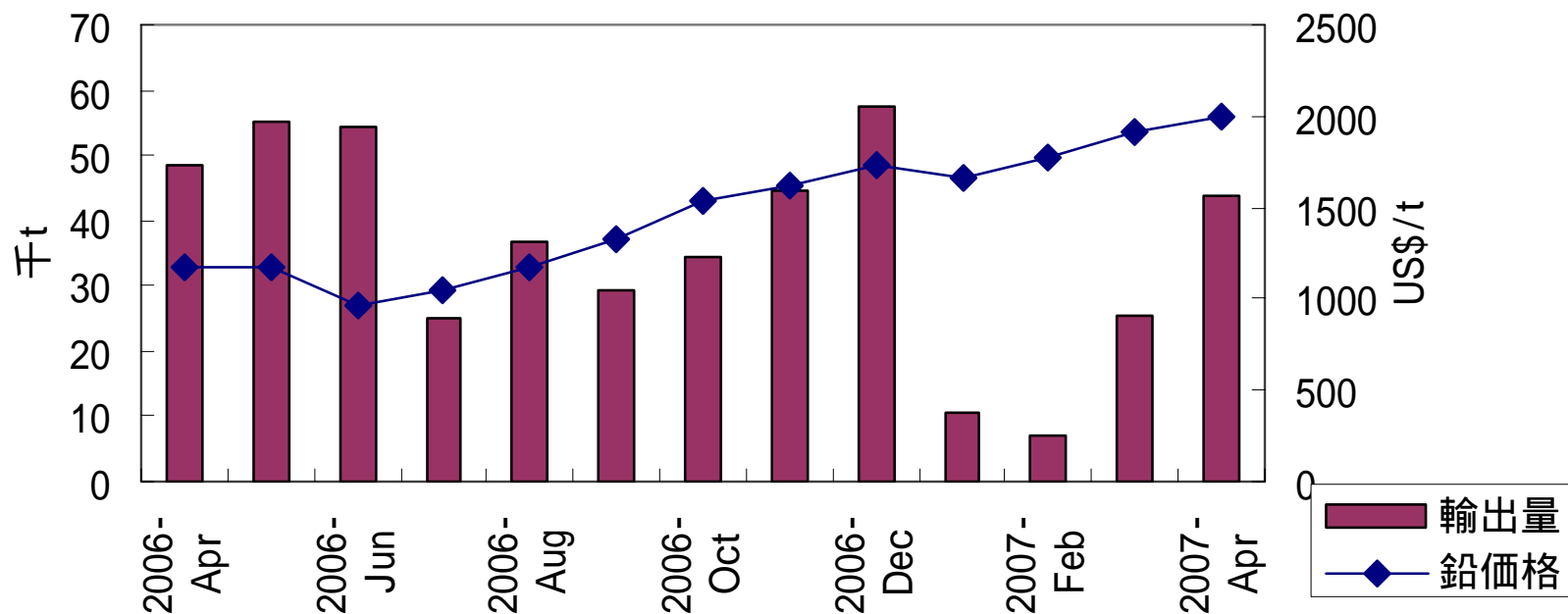
輸出量合計: 1,690千t

中国輸出量: 538千t

中国鉛地金輸出量の推移

中国国内の消費が拡大(2007年1～4月で前年同期比19.3%増、世界消費の30%を占める)していることもあり、2007年初、中国の鉛輸出量が激減した。但し、4月には通常のレベルへ回復した。しかし、依然、価格高騰は続いており、鉛輸出量の減少のみが価格高騰の原因では無いようである。他方、中国政府が輸出増徴税還付率を2006年9月より引き下げ(13%→8%)、2007年7月にさらに引き下げ(8%→5%)しており、国内生産者の輸出を阻害している。

中国の鉛地金輸出量推移



出典: 国際鉛亜鉛研究会

おわりに

- 銅：中国輸入量の推移
- ニッケル：中国消費の推移
- 亜鉛：中国亜鉛貿易バランス
- 鉛：価格高騰と需給の関係及び貿易での中国依存度